

きゅうり これからの管理

『雨除けきゅうりについて』

ハウス内の乾き過ぎに注意し灌水を行っていきましょう。ベット灌水だけでは不十分な場合は通路灌水を行って下さい。また、草勢維持のためハウス内の高温状態を避けるために換気の徹底を行って下さい。

整枝作業につきましては枝の伸びが良い場合、混み合うようになってきますので、摘芯・摘葉作業はこまめに行っていきましょう。混み合い過ぎている場合は摘葉を優先に管理し通気性の良い状態にして下さい。

灌水間隔につきましては圃場が乾くようであれば毎日、場合によっては1日2回（朝、夕）行いましょう。追肥につきましても同様、灌水時には毎回行うようにして下さい。朝夕2回行う場合には、追肥は朝行うようにしましょう。

『露地きゅうりについて』

露地の場合も晴天が続くと圃場内は乾燥してきます。十分な灌水を行っていきましょう。逆に、雨天時が続いたり大雨により圃場内が灌水状態になった場合、排水が悪い状態であると根腐れを起こす可能性もありますので、排水対策も行って下さい。

整枝作業につきましては混み合うところを中心に摘葉していきましょう。ただし、側枝については摘み急がないようにして常に樹勢の維持をして下さい。

灌水につきましては、圃場内が乾くようであれば毎日行いましょう。追肥につきましても灌水と同時に施用して下さい。また、通路に置肥を施用するのも効果的です。

『抑制きゅうりについて』

早い方は定植時期になってきます。定植前には十分な灌水を行い、根鉢部分が乾かないように手灌水を行いましょう。また、定植後に萎れが激しい場合は通路散水・葉水を行い、それでも改善できない場合は蒸散抑制剤の使用も検討して下さい。

太陽熱消毒を行った方は、最低定植7日前にはマルチを剥いておきましょう。

ハウス内も高温になりますので、換気の徹底を行いましょう。

○葉面散布・発根剤の使用を定期的に行い草勢の維持に努めて下さい。

パワフルグリーン2号	500 ～1000倍	R Bパワー	10 a / 2リットル
メリットシリーズ（青・黄・赤）	300 ～ 400倍	夢	10 a / 5リットル
ベストII	500 ～1000倍		

○定植後、どうしても萎れがひどい場合は蒸散抑制剤の使用を行って下さい。

プロテック	蒸散抑制効果として	200 ～ 300倍（単剤使用）
	展着剤として	500 ～1000倍（農薬混用可）

『農薬防除について』

病害虫の発生が多くなってきます。特に害虫につきましては、ウイルスを媒介するアブラムシ・スリップス・コナジラミを重点的に防除しましょう。

作付終了後、雨よけ栽培につきましては蒸し込み管理、露地栽培につきましては農薬による重点防除後、速やかな片付けすき込みを行って下さい。

抑制定植後は、黄化えそ発生対策として速やかに防除を行いましょう。

雨除け栽培の方で収穫が終了される方は、収穫終了前には重点防除を行い必ず蒸し込みを行いましょう。

露地の方は、終了前には重点防除を行い終了後は速やかに残渣すき込みを行いましょう。

ハウス周辺の除草対策を実施しましょう。

果樹園の管理(8月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。気温も高くなってきますので管理を充分に行い、病害虫の発生にご注意ください。

1. 日向夏の管理

1) 水管理

夏季に乾燥が続く場合や、傾斜地・耕土の浅い土地などの乾燥しやすい園地では定期的にかん水を実施して下さい。また、かん水設備の無い園地は、梅雨明け前に敷きワラ、敷き草を行い土壌の水分蒸散及び養分の流出を防ぐ様にします。

土壌が乾燥状態となると、果実肥大が不良となりホウ素欠乏等の微量要素欠乏も発生しやすくなるので注意が必要です。

2) 葉面散布の実施

品質向上、果実肥大のため、葉面散布を実施します。

品質向上…パワフルグリーン2号(8月まで) 800倍

3) 夏季剪定

剪定が不十分な園地では補足的な剪定を実施します。方法は内部まで十分に光が当たるように間引き剪定を行って下さい。太い枝の切口については処理を行って下さい。アルミホイルを被せておくと新梢の発生を抑えることが出来ます。

4) 病害虫防除

8月より袋掛けを行いますが、袋を掛ける際はハダニの防除を徹底しましょう。

	病害虫名	使用薬剤	使用倍数	収穫前日数
1回目	ハダニ・サビダニ チャノホコリダニ	カネマイト(フ)	1000	7日前
5日間 空けて	コナカイガラ 黒点病	スタークル(顆粒) ペンコゼブ(水)	2000 600	90日前
2回目	ハダニ	ダニエモン(フ)	4000	7日前

※コナカイガラ防除は必ず実施します。

2. スイートスプリングの管理

1) 病害虫防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病、黄斑病等の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。

台風通過後は多発生の恐れがありますので必ず散布して下さい。

病害虫名	使用薬剤	使用倍数	使用方法
かいよう病	Zボルドー	500	混用散布
	バイカルティ	1000	

3. 台風対策

これから台風の時期となります。事前に対策を行い、被害を抑えましょう。

- 対策—
- ・排水溝や土どめ対策を整備し、階段の崩壊や土砂の流出・流入を防ぐ。
 - ・幼木、若木や高接ぎ樹などは太い竹で支柱を立て結束する。
 - ・防風林の補強手入れを行う。
 - ・台風通過後はかいよう病等の防除を実施する。

※農薬の使用については、使用基準(適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等)を守り、近隣作物への飛散にも十分注意して散布して下さい。

連絡先……生産指導課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

暑い日が続く、収穫や作付け（準備）等、管理が大変な時期が続きます。ここ数年昼夜を通して平年より高温が続く傾向があり、熱中症など体調の不良を訴える事例も多く見られています。体調に留意しながら、作業を行って下さい。

また、高温・乾燥が続くと害虫の発生が多くなる、肥料が吸収されにくくなることによる肥料の欠乏症状も発生します。灌（散）水ができる圃場では灌（散）水ができるよう準備を行って下さい。（夕方からが効果的です）

これからの管理

台風やそれに伴う大雨、台風通過後の乾燥などに備え、いつでも対応ができるよう準備をすすめておきましょう。

排水溝の整備を行い、水はけを良くして下さい。

高温・乾燥が続くとアブラムシ、スリップス、ダニ、ヨトウムシ等が発生します。予防策を十分に行って下さい。

○アブラムシ …………… シルバーテープの設置（反射する光を嫌い、寄生が抑えられる）

○ヨトウムシ …………… フェロモントラップの設置（雄成虫の捕獲により繁殖を抑える）

※2ヶ月に1度フェロモンを交換して下さい。

○ダニ・スリップス … 葉や茎に寄生します。草勢が良く極僅かな発生なら生育への影響は少ないと考えられますが、増殖が早いので多発後の対応は困難となります。

活性剤等の定期散布も草勢維持には有効と考えられます。

※高温・乾燥により害虫は多く発生しますので、畑かんがある圃場ではスプリンクラー等で散水し、乾燥を防ぐと発生が抑えられます。

・里芋・



芋が最も肥大する時期に晴天日が続くと土壌が乾燥し、水分不足となります。里芋は乾燥害による収量と品質の低下が大きいため、灌（散）水が可能な圃場では5～6日間隔で灌（散）水を行って下さい。（1回の灌（散）水目安量20～30mm程度）

ヨトウムシ・アブラムシ・ダニ等の発生も増えます。発生が見られる前の予防策を行って下さい。（産直契約出荷分は農薬の使用はできません。）

産直契約分は、8月中・下旬から収穫・出荷が始まります。石川早生は、8月末が収穫適期になるため収穫が遅れると品質低下の原因になります。（割れ芋の発生等）

・白ネギ・



今後、高温・乾燥状態が続くと害虫の発生が多くなることが予想されます。予防策を徹底して下さい。定植後40～50日が初期生育の旺盛な時期となります。土寄せと一緒に追肥も行うようにして下さい。1回目の土寄せから20～30日間隔で、除草も兼ねて土寄せを行うようにして下さい。

除草が遅れて草勢が低下している箇所は、台風や大雨の被害を受けやすくなります。早期の草勢回復に努めて下さい。

葉先が白くなるのは乾燥とスリップスの害と考えられます。灌（散）水で抑えることができます。白い部分が25cm以上を目標に管理をお願い致します。

・夏播き人参・



播種日は収穫・出荷に影響しますので、指定された期日内に必ず播種を行って下さい。人参の発芽

は天候に大きく左右されます。土壌が乾燥していると発芽率が低下し、生育も不揃いになるので、土壌水分を確保してから播種を行って下さい。

播種後の覆土は浅くし、軽く鎮圧して下さい。高温乾燥による発芽・生育不良が多いため、夕方から夜間のスプリンクラーによる散水を実施して下さい。高温が続く場合は、気温の下がる夕方からの散水や播種が良いようです。

雨が多い場合は排水溝を整備し、圃場外に排出して下さい。

※播種や定植は、暑い日中を避け、夕方行いましょう。地温が上がる時間帯に行うと、発芽不良や根傷みの原因となります。できるだけ土壌水分を確保し、活着を促進して下さい。播種・定植後灌(散)水ができる圃場は積極的に行いましょう。

秋冬の作付けの前に土壌分析を行いましょう

土壌の状態を確認するために、土壌分析を行って下さい。簡易施設(雨よけハウス)では、作付けをする前には必ず土壌分析を行って下さい。

土壌中に残っている肥料を確認し、適切な施肥を行いましょう。過不足による病虫害の発生、養分吸収の阻害など問題が生じていますので、必ず分析を行ってからの施肥を心がけましょう。分析には、最低2週間かかりますので、早めの提出をお願いします。詳しい内容は開発センター、または生産指導課まで。

年に一度は緑肥作を

ソルゴの『つちたろう』や、クロタラリアの『ネマキング』がセンチュウ抑制に効果があると言われていますが、圃場によってはセンチュウよりも他の被害があるのではないかと思います。

じゃがいもに出る「ジャガイモそうか病」は、土壌消毒以外に手はないと言われていましたが、エンバクの『ハイオーツ』が、ジャガイモそうか病抑制効果があるといわれています。

春にじゃがいもを作付し、そうか病があった圃場では、ハイオーツの作付を推奨します。作付期間はソルゴと同じで60日前後、草丈80cm～出穂始頃がすき込み適期です。播種量は10aあたり10～15kgのバラ播きです。

作物の根に「こぶ」や「亀裂」、あるはずのない「線」などが発生していたら必ず緑肥を作付けしましょう。

連絡先…生産指導課 77-2216